書道三　第二回課題（四月二十七日）

教科書　『書目』P2～3　甲骨文〉p4～5　金文〈）小臣艅犠尊・散氏盤〉を今回の課題とします。

めあて

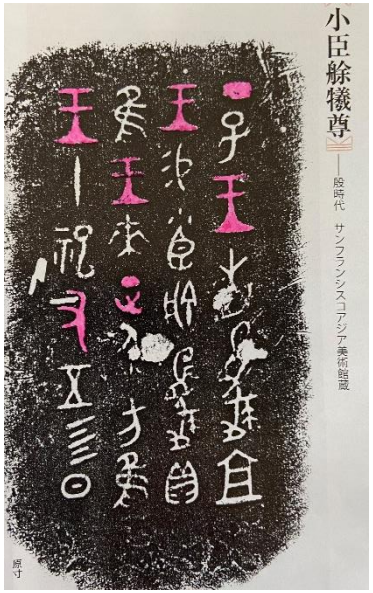
(1)　篆書体には、甲骨文・金文・小篆があり、それぞれに造形の違いがあることを感じとる。

(2)　金文が、青銅器に鋳込まれていることを知る。

学習

篆書は漢字の中でも一番古い書体です。亀の甲羅や動物の骨などに刻まれた甲骨文や、青銅器に鋳込まれた金文、さらに、今から2200年ほど前に中国を初めて統一した秦の始皇帝が定めた小篆（しょうてん）などの古代文字をまとめて「篆書」とよびます。

P4 小臣艅犠尊・p5 散氏盤のように青銅器の銘文を金文と呼びます。同じ金文でも、古い時代のもの（P4 小臣艅犠尊）は、肥筆とよばれる、塗りつぶしたようなところが見られ、造形的です。一方、時代が進むにつれ肥筆は見られなくなります。



ピンクに塗ったところが肥筆

秦の始皇帝時代の　嶧山刻石』＝小篆

＊二枚目の紙については、大きさがA4用紙で形式が同じであればどんな用紙でもかまいません。

＊提出方法については、後日連絡します。

書道Ⅱ『課題 ②篆書　　年　組　番（　　）

甲骨文の「子」・金文の「子」・小篆の「子」を比べ、違いについてまとめましょう。

甲骨文	金文	小篆

『子』の意味を調べましょう。